

## 【栄区】令和5年第1回区づくり推進横浜市議員会議議事録

開催日時	令和5年2月14日（火） 午前10時30分～午前11時30分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】 輿石且子議員</p> <p>【議員：2名】 大桑正貴議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：30名】 富士田学区長、今仁知宏副区長、 横森喜久美福祉保健センター長、 井上弘毅福祉保健センター担当部長 櫻井暁人土木事務所長 大野豊総務部担当部長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>(1) 令和5年度個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>(2) 会議報告書作成について</p>
発言の 要 旨	<p>(説明省略)</p> <p>長谷川議員：新規事業のデジタルツールを活用した次世代交流事業は具体的にどのような内容か。また、次世代交流ステーションにおける事業検討会（8回）について、どのような検討を行うのか。</p> <p>和田哲弥こども家庭支援課長：対面での交流・連携に加え、SNSやオンライン会議等のデジタルツールを補完的に活用することで、交流・連携の機会を拡大するため、令和5年度新規事業として取り組む。利用者は、新規の施設利用者や、距離や時間的制約により事業所に通えない方、子育て関連事業者を想定しており、オンラインで交流会や相談会を実施する仕組みをつくるため、令和5年度はニーズを調査して具体的な手法について検討していく。また、効果的なオンライン交流会開催など、子育て支援に関わる誰もが交流機会を創出できるよう、デジタル活用人材の育成支援を行う。調査や支援の実施方法等について、事業検討会を8回行う予定だ。</p> <p>長谷川議員：SNSを通じて利用者が知り合い、そこから交流が深まって、共に悩みを共有したり力になれることは大変素晴らしいことだ。時代にも合っていると思うのでぜひ進めていき、子育てしやすい栄区をアピールしていただきたい。</p> <p>高齢者のICT利活用支援事業について、ICTの活用に積極</p>

的に取り組んでみようという方に対しては、ぜひ区で支援していただきたい。一方で、レシ活やマイナンバーのことが分からず、ICTの活用に消極的な方たちもいらっしゃるので、そういった方たちにも情報共有や支援を引き続き行っていただきたい。

松原実千代高齢・障害支援課長：高齢者がICTを活用した社会の動きから取り残されないようにするため、この事業を実施する。一方、ICTに全く興味のない方が取り残されないように、紙媒体を含め情報の周知には気をつけていきたい。

大桑議員：令和5年度栄区予算案の考え方について、デジタルを活用した事業や本郷台駅周辺のまちづくりはぜひとも進めていただきたい。本郷台駅前広場活性化推進事業について、駅前の活性化に向けて、民間の方たちとしっかりコミュニケーションを取りながら進めていただきたい。

本郷台駅周辺のまちづくり推進については、財政局や都市整備局など関係局と調整し、地域の方の話も聞きながら、どういう形がいいのか検討を進めていただきたい。また、中期計画において新たな図書館像の構築が施策としてあるので、公民連携の中で本郷台駅前での拠点整備を区から提案する良いチャンスだと思う。市立図書館の再整備の在り方検討とも聞いているので、考えや意見を聞きたい。

富士田区長：本郷台駅周辺については、公共施設の再編成という、非常にハードルの高い課題であると認識している。駅前の市営住宅の老朽化や旧本郷地区センター、図書館が入る入らないなど、検討すべき施設は多いが、区民の方々の要望は非常に強いものであり、市の大きな方針の中で、時期を逃さないよう範囲を見定めながら取り組んでいきたい。

大桑議員：我々も適宜、区と話をしながら、市ともしっかり調整させていきたいと思う。

スクールゾーン対策協議会について、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変更となると、恐らく各校の協議会もオンラインではなく対面が主流になってくると思う。これまで顔を合わせる機会がなく、なかなか要望が出なかったこともあるかもしれないので、協議会の方々とコミュニケーションを取りながら要望を受け止めていただきたい。

出産・子育て応援事業に関連して、産前の準備のための出産応援金5万円、新生児のための子育て応援金5万円の給付が始まる。市としては現金給付という考え方だと思うが、クーポンでの給付という考え方もあると思う。地域に身近な区として、地域の方々の声を聞いていただきたい。また、今回は伴走型支援で、ポイントごとにしっかりフォローしていくということなので、地域の声を局に伝えるとともに、局と連携して進めていただきたい。

和田哲弥 子育て支援課長：出産・子育て応援事業については、支援金を給付するだけでなく、妊娠期から出産後まで、切れ目のない伴走型支援を行う事業である。栄区では支援コーディネーターが増員となる予定なので、きめ細かい支援を充実させていく。出産応援金については母子手帳交付時に、子育て応援金についてはこんにちは赤ちゃん訪問の際に申請していただくので、訪問時に給付方法についてニーズを把握して、局に区の意見をあげていきたい。

大桑議員：栄区の特徴（自然豊か）を活かした職員向けスキルアップ研修の事業内容について聞きたい。

また、明るい選挙啓発事業について、投票率向上のため、ぜひともよろしくお願ひしたい。

自治会・町内会活動推進事業について、市民局で区を選定して自治会・町内会のデジタル化を応援する事業を実施すると聞いている。栄区として情報をつかんでいるかということと、栄区内で町内と連携して手を挙げてみるという考えがあるのかについて聞きたい。

和田哲弥 子育て支援課長：栄区の特徴（自然豊か）を活かした職員向けスキルアップ研修は、栄区内の豊かな自然の中で、講師の話聞きながら子どもたちが自然に触れ、遊びながら学び、職員が学びのサポートや指導を実践して自らのスキルアップにつなげるという趣旨で実施している。

近堂次郎 地域振興課長：自治会・町内会のDX応援事業については、自治会・町内会のDX化を進めて業務の効率化、役員の方々の負担軽減、特に子育て世代を含む若い世代の加入促進などを期待するものと聞いている。区の選定方法については、区提案反映制度で手を挙げている保土ヶ谷区を中心に調整を進めていくと聞いている。

る。

輿石座長：令和5年度栄区予算案の考え方〈主な取組〉の1「まちの魅力づくり」について、緑地の利用実態調査に着手された。国際園芸博覧会との連携について、栄区としてできることがあるのか。

大野総務部担当部長：先日の1500日前イベントの際は区役所でも2日間にわたって区民の方々に切り花を配布した。機運醸成のため、局と連携しながら様々な形で取り組んでいきたい。

輿石座長：栄区にはシドモア桜が植わっていて、平成28年度にサクラとカツラを区の木として制定しているのかねてからその利活用を求めてきた。サクラの並木は世の中で注目を集めているとも聞いている。駅前や上郷森の家にもシドモア桜がある。サクラとカツラの利活用についてどう取り組んでいるか。

大野総務部担当部長：これまでも区で作成している緑を紹介するパンフレットに掲載している。区の木という形でページを工夫して、PRを進めていきたい。

輿石座長：国際園芸博覧会の一角に栄区の存在感をアピールするようにしていただきたい。

大野総務部担当部長：オープンガーデンの取組などについても、国際園芸博覧会と連携してPRを進めていきたい。

輿石座長：2「みんなが支えあい・助けあい、安心を感じるまちづくり」の地域子育て支援の取組のPRについて、中期計画と連携し、子育てしやすいまち栄をアピールする好機だと思っている。栄区内の子育て支援団体が集まってヤングケアラーの勉強会をしている。そういう取組を進めて、栄区は子育てしやすいまちということアピールしてもらいたい。他の区でも子育てしやすいまちを打ち出すと思うが、例えばみなとみらいがある西区の子育てしやすいまちといったときの子育てのイメージと、他の区のイメージとでは差別化を図ることができると思う。栄区が考える子育てのしやすさは、自然の豊かさや治安の良さだと思う。区長に意見を伺いたい。

富士田区長：子育ての問題は市を挙げて全区で取り組むべきことであり、本当に大切なことだと思っている。栄区として、自然豊かな環境、地域にある空き家、豊富な人材などを活用して子育てをしていくということも良いと思う。特徴をしっかりと出しながら取り組んで

いく。さらには、今住んでいらっしゃる方が非常に暮らしやすい、暮らし続けたいと思っていただく中に子育ても組み込んでいきたいという思いがある。子育てのためだけの施策ではなく、今住んでいる方たちも大切にしながらしっかりと施策を組んでいきたい。

興石座長：高齢になった親とその子の間ではニーズにばらつきがある。同じ場所で暮らし続けられないこともある。そういった場合の価値観を変えることは難しいと思うが、栄区を好きになり新たに転入する人がいる。血縁はないけれども家族のように暮らすという姿が栄区の次の世代の暮らし方だと思う。栄区に来ると何が得られるのかが伝わるようにしていただきたい。

4「地域に寄り添う区役所の推進」について、職員が名札の裏に入れているスマイルガイドを、職員のパソコンに表示する取組が以前行われていたが、現在はどうか。

富士田区長：現在は行っていない。

興石座長：区民の方々にわかるよう区役所内に掲出してみてもどうか。

富士田区長：考えてみたい。

興石座長：地域の学び場事業について、栄区民文化センターリリスの周年事業を参考に、栄区役所の歴史を振り返る取組を企画検討されてはどうか。区政推進課と地域振興課で協力してやっていただきたい。

また、セーフコミュニティの後継の仕組み検討について、本日の会議以外でもお話を伺う機会はあるか。

富士田区長：後継の仕組み検討についてはいろいろな方の意見を聞いて検討をしている段階だ。説明させていただく機会を設けたいと思っている。

興石座長：民生委員の負担軽減に向けた基礎調査及び自治会町内会活動推進事業について、自治会の活動と民生委員の成り手不足は相互に関連した課題だと思っている。区として民生委員さんの成り手不足解消のため、自治会からどのように協力をいただくのか考えを伺いたい。

齋藤修身福祉保健課長：自治会・町内会の方々からは、民生委員の選出が困難なことやその推薦事務を担うことについて幅広く意見をいただいている。次回の改選に向けて負担軽減に取り組む。令和4

年度中に推薦事務に関わった自治会・町内会長にお話を聞く懇談会を地区連合町内会ごとに開催する。令和5年度の自主企画事業では、民生委員の方々との懇談会の開催、専門家を交えた地区連合町内会長の方々のお話を聞く懇談会を開催し、双方向で意見交換し区役所でできることを考えて、見直しを進めたい。

それから、市や県の単位で変えていかなければいけないような事柄は、プロジェクトなどを組んで取り組み、国への要望などもしていくということで、局と相談している。また、回覧板での募集については区役所として否定しておらず、民生委員として適している方が選定できるのであれば妨げるものではないとお伝えしている。ただし、自治会の方々とのコミュニケーション不足も感じている。自治会・町内会と丁寧に連携していくことが必要だと思う。今回行う懇談の結果も区連会を通じて自治会・町内会の方々にフィードバックしていく。欠員補充をお願いするような機会を通じて、出前で区役所から出向いて説明に行くこともやっていきたいと思っている。

興石座長：とてもいい動きだと思う。できることをやっていただきたい。

本郷台周辺のまちづくり推進について、連携してやっていただきたい。例えば、本郷台駅の北側に改札をつくることについて、潜在的に希望を持っている方がいるので、そういうことまで議論にのせてもらえるとより話に活気がでて、前向きな話ができるのではと思っている。本郷台駅周辺のまちづくりの全体像について、議論が始まったなど実感が持てるのはいつなのか。

富士田区長：先ほどもお話しさせていただいたとおり、最初のきっかけは市営住宅だと思う。それに向けてということもあり、いつということはなかなか言えない。それまでにしっかりと準備を進めていくというのが現在の区として役割だと思っている。

興石座長：図書館の前に立っている外灯について、今、全部消えて夜間は真っ暗になっている。水銀灯を使用していたため、新たにLEDのポールを立てることになったと聞いている。LED化は令和5年度中に実施と聞いているが、その間、環状4号線という主要道路に近い一角が暗いのは残念なので、補完的な対応はできないのか。

松田宗純栄図書館長：水銀灯の球切れと灯具の不具合ということで補修も

考えたが、30年前の照明で部品がないためESCO事業によりLED化することとした。一日でも早く実施したいと考えている。

興石座長：図書館の駐輪場について、利用が多くないエリアもあるようだ。図書館そのものの魅力向上に活用したり、栄区の子育ての魅力、高齢者の魅力向上に向けて図書館とハード面・ソフト面での連携などが進めば良いと思うがどうか。

松田宗純栄図書館長：図書館玄関の右側は地域に開放しており多く利用されている。左側が図書館の駐輪場で、確かにそこはあまり利用されていないのが実情だ。図書館の魅力向上も非常に大切だと考えており、将来的に栄図書館がどうなるか分からないが、当面の間は地域の方々から愛される拠点、またはほっこりする場所として、何らかの検討をしていきたいと思っている。

富士田区長：しっかりと調査して、現場を確認して、何ができるか考えたい。

興石座長：防災力向上事業について、栄区としてマイ・タイムラインの活用を強化していく予定はあるのか。

富士田区長：マイ・タイムラインを作る用紙の配布をしており、まずはより認識してもらおう段階だと思う。避難に関して、拠点に行くのではなく在宅避難を強く呼びかけている中で、自分の避難の仕方考えることが必要だと思うのでしっかり取り組みたい。

興石座長：マンションの防災について、建築局主導でよこはま防災力向上マンション認定制度が始まった。マンション防災について、もう少し区として先導してやっていっても良いのではないかと考えているがどうか。

伏見和久総務課長：認定は建築局で行っている。区としては独自に、幾つか大規模なマンションと調整して、どういった避難ができるのか年度内に相談会の実施を考えている。また、自治会の要望に応じて、防災の専門家を交えた出前講座を行うなど、幅広く取り組んでいる。特に防災拠点の観点では、マンションは頑丈で、在宅避難が安全なので、その点を周知していきたい。

興石座長：マンションは地域防災拠点としての認定を受けることはできないので、マンションの管理組合さんに対して区として何ができるか検討を続けていただきたい。

地域防災拠点支援事業のペット同行避難に関連して、ペットと

一緒に移動することに区民の方々が慣れて、店舗や公共施設が許容力を高めておくことが後々有事の際のペット同行避難への理解を深めると思う。栄区としてペットとどう暮らすのかということについて、意見はあるか。

古家浩一生活衛生課長：ペットの同行避難については、今年度までに、全ての地域防災拠点へ専用のテントを配付し、今後はそのテントを活用した訓練につなげていくことを目標としている。一方で、ペットの適正飼育に関しては、わんわんパトロール活動という、地域の住民の方に手を挙げていただき、散歩をするついでに地域の見守りをしていただくとか、ペット飼育のマナー啓発をしていただくという事業を実施している。ペットを連れてお店に入ることを推奨するようなことまでは手が伸びていないが、何か機会があれば検討して、積極的に取り組みたい。

興石座長：放課後の子どもの在り方、放課後児童クラブや放課後キッズクラブなどが資料では見当たらないが、その辺りについて何かあるか。

富田義徳学校連携・こども担当課長：放課後の居場所は子育ての中で大事な施策として打ち出されている。これは個性ある区づくり推進費ではなく、局の予算で進めていく。各キッズクラブへの運営補助金交付など、こども青少年局と連携して区役所でしっかりと行っている。

興石座長：放課後キッズクラブも放課後児童クラブも居場所は違っても子育てとしては同じだ。チラシ1枚の取扱いも違うと聞く。子どもファーストの視点で制度を正確に伝えて、子どもと保護者双方の支援を柔軟にできたら良いと思っている。

大桑議員：区民の方々からすると区役所が窓口になる。区局間の連携が取れていないのではないか。チラシ1枚の取扱いも含めて、区局で連携して進めていただきたい。

最後に、小菅ヶ谷北公園にインクルーシブの遊具を設置するというので、環境創造局が戸塚の東俣野特別支援学校と連携する話を聞いた。近隣に小山台小学校や小菅ヶ谷小学校、本郷特別支援学校もある。公園なので、良い意味でインクルーシブの遊具とはどのようなものなのか、小学生も見られると思う。栄区としても環境創造局と連携していただきたい。



	<p>興石座長：ほかに発言がないようであれば本件については以上となる。</p> <p>回議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	